北海道教育大学
函館校・岩見沢校
学科成果レポート

国立大学法人 北海道教育大学

hue

1課程2学科　□教員養成課程　☑国際地域学科　☑芸術・スポーツ文化学科

5キャンパス　□札幌　□旭川　□釧路　☑函館　☑岩見沢

大学案内 請求方法

▶電話から　入試課 TEL 011-778-0274

▶HPから

http://www.hokkyodai.ac.jp/exam/department/guidance/nyushi-info.html

北海道教育大学とFacebookでつながろう。公式Facebookより本学の情報を発信しています。

https://www.facebook.com/hokkyodai

発行／平成29年3月

国立大学法人 北海道教育大学

〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

TEL:011-778-0306　FAX:011-778-0631

http://www.hokkyodai.ac.jp/

問い合わせ先

函館校

〒040-8567 北海道函館市八幡町1番2号

http://www.hokkyodai.ac.jp/hak/

総務グループ

TEL:0138-44-4204　FAX:0138-44-4380

E-mail:hak-somu@j.hokkyodai.ac.jp

岩見沢校

〒068-8642 北海道岩見沢市緑が丘2丁目34番地1

http://www.hokkyodai.ac.jp/iwa/

広報・地域連携グループ

TEL:0126-32-0310　FAX:0126-32-0251

E-mail:iwa-koho@j.hokkyodai.ac.jp

自分で道を切り拓く、2つの学科。

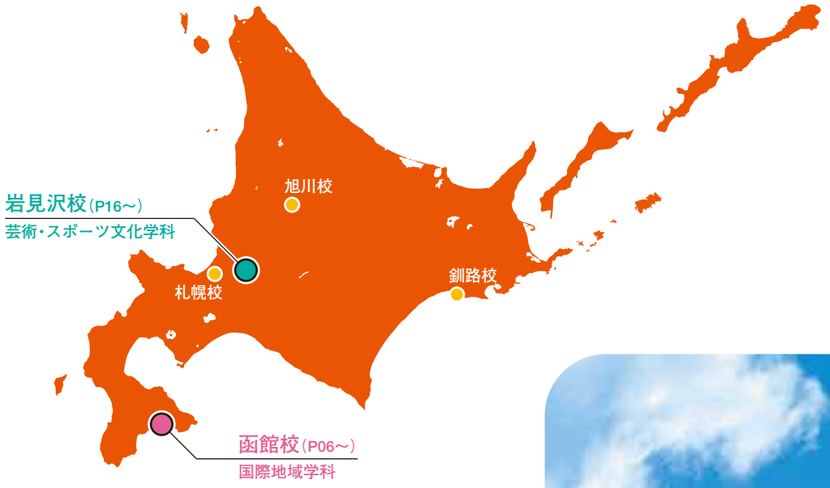
北海道教育大学には、札幌・旭川・釧路・函館・岩見沢の5つのキャンパスがあります。「教育大学」というだけに「教員養成」の大学というイメージしか持たれないこともありますが、実は函館と岩見沢のキャンパスには、それぞれに違った個性的な学びがあるのです。

函館キャンパスでの学びの基盤は「地域学」(国際地域学科)。地域学をベースに、国内外での実践的な学びを通して国際感覚を身につけ、地域の良さを発見する力、地域活性化のための企画力、実行力、そして人をまとめる力を獲得して、〝地方創生〟に力を発揮できる人材として成長します。

岩見沢キャンパスでの学びの基盤は「芸術・スポーツ文化学」(芸術・スポーツ文化学科)。音楽や美術、スポーツの技量を磨き、それらが人を癒し、元気づけ、一体感や絆を生み出す〝文化力〟を持っていることを学びます。その応用のために市場調査を含めたビジネスのノウハウも身につけ、地域で〝生き甲斐づくり・まちづくり・健康づくり〟に貢献して地域を活性化できる人材として成長します。

2つの学科が教員養成課程と大きく違うのは、何をめざすのか、そのために何を学ぶのかという選択肢が、あなたに大きく委ねられているということ。

ですが一度道を決めたなら、北海道教育大学はその夢を全力でバックアップします。



Contents

02　2つの学科の概要
04　2つの学科の特色
06　函館校「国際地域学科」の取り組み
14　函館校と岩見沢校の施設
16　岩見沢校「芸術・スポーツ文化学科」の取り組み

踏み出せ 新しい 世界へ

函館キャンパスの「国際地域学科」と、岩見沢キャンパスの「芸術・スポーツ文化学科」は、地域貢献やビジネスなどの広いフィールドを対象にしており、進路にも多様な可能性があります。未知の世界で自分の夢を実現するために必要なのは、現場に触れ、課題解決を模索する実践的な学び。あなたの意志で未来を切り拓いていく、そのための力を、ここで手に入れてください。

国際地域学科

・地域協働専攻（240人）
・地域教育専攻（45人）

定員285人

芸術・スポーツ文化学科

・芸術・スポーツビジネス専攻（25人）
・音楽文化専攻（40人）
・美術文化専攻（55人）
・スポーツ文化専攻（60人）

定員180人

函館校

国際的な視野を持ち、地域の再生・活性化を担う人になる。

教育課程の構造

専門科目

国際協働 / 地域政策 / 地域環境科学 / 地域教育

学科共通科目

教育マインド・コミュニケーション科目　地域学入門科目

教育学的視点とコミュニケーション能力、地域学の基礎を修得し、地域課題への主体的取り組みを促す

共通基礎科目：幅広い基礎知識・理解

基礎教養科目：人文、社会、自然科学分野における基礎教養

現代地域教養科目：地域性、国際性、コミュニケーション能力の育成

学生が身につける力

❶国際的な視野からの理解力
❷教育マインド
❸コミュニケーション能力
❹地域を活性化する力

特色あるカリキュラム

地球を体験

「海外スタディーツアー」
▶国際機関や企業海外支店の活躍現場を見る

異文化理解を深め、国際的な視野を体験的に広げるための科目で、教員の引率により海外渡航し、国際機関や日本企業の海外支店を訪問、NGOの海外協力活動の見学等を行っています。平成28年度は、アメリカ、フランス、ポーランド、中国、台湾、韓国、インドネシアの7ツアーで、各10人が参加しました。

学科ならではの取り組み

大学と地域の結節点

「ソーシャルクリニック（地域社会の診療所）」
▶地学協働で課題解決を目指す

地域の人々と協働しながら、地域課題を診断し、処方箋（解決策）を書き、治療（解決策の実践）します。平成28年度から、函館市、江差町、知内町との間で始まり、江差町では、地域活性化策の提言、観光・移住の目的地としての価値再発見などに取り組んでいます。

VOICE

江差町では、人口減少が進む中での公共施設の運営の在り方や、地域振興策を提案するための調査・研究を行いました。惜しみない協力をしてくださった地域の皆さんのおかげで、江差の人びとの暮らしや生き様にも触れることができました。過日、研究の成果を江差町の皆さんに発表しましたが、今後のまちづくりを考えるきっかけになればと思います。

地域創生人材の育成

「寄附特別講座」
▶各界で活躍する人生の先輩から学ぶ

新日本スーパーマーケット協会と北洋銀行との連携により、地域産業を担う高度な地域人材の育成とキャリアアップを目的に実施しています。産業界や官界など、各界トップクラスの方々を講師として迎え、平成28年度は全9回延べ約800人の参加がありました。

岩見沢校

芸術・スポーツを、地域の課題解決やビジネスにつなげる。

教育課程の構造

専門科目

芸術・スポーツビジネス / 音楽文化 / 美術文化 / スポーツ文化

学科共通科目

文化基礎科目　文化共通科目　ビジネス科目

地域実践プロジェクト科目：芸術やスポーツの社会における役割や意義について学び、ビジネスの観点から実践体験を通して探究します。

共通基礎科目　基礎教養科目　現代的教養科目

大学で学ぶための基礎となる資質を身につけます。

学生が身につける力

芸術・スポーツを活かして

❶文化価値を生み出す力
❷地域の課題を解決する力
❸新たな文化ビジネスを発想する力
❹地域再生の核として活躍できる力

特色あるカリキュラム

まちづくり

「地域活性化プロジェクト」
▶まちなか朝市を盛り上げましょう

岩見沢市の中心街ににぎわいをつくりだそうと、学生がまちに飛び込んで岩見沢市内の商店主と連携し「まちなか朝市」への出店の企画・立案のみならず、当日の運営一切を行いました。

VOICE

岩見沢に人を呼び寄せ、マチに活気を生むため何ができるかを考えました。岩見沢には自然の豊かさ、落ち着いた街の雰囲気があります。この企画に参加した私たち学生にとっても、地域の将来を見つめ直すきっかけになりました。

学科ならではの取り組み

生き甲斐づくり

「あそびプロジェクト」
▶ロシア語で歌いましょう

ロシア語のアルファベットを学んで、「カチューシャ」「赤いサラファン」など、老若男女を問わず歌えるロシアの歌を声楽の教員に学びながら、一緒に歌うことで息の長い芸術活動に取り組むきっかけをつくります。

健康づくり

「レッツ トライ！ アダプテッド・スポーツin岩見沢」
▶スポーツの多様な魅力を伝えます

障がい者や小さな子ども、高齢者など実践者に合わせるスポーツである「アダプテッド・スポーツ」の普及に取り組んでいます。具体的な活動としては、本学体育施設を活用してのスポーツ教室の開催・サポートなどを行っています。

topics 01 HAKODATE campus

国際的な視野から現代社会の諸課題を理解する力

国際地域学科のミッションは「国際的な視野をもつ人材」を養成することです。学生たちは海外留学や海外大学の学生と交流するなど国際経験を積みます。こうした体験を通して、国際的な視野から現代社会の諸課題を理解する力を身につけています。ここでは、「海外スタディーツアー」と「日本―カナダ学生ワークショップ」について紹介します。

海外スタディーツアーで海外研修

世界銀行や国連本部を視察

海外スタディーツアー※は海外の企業や国際機関などを訪問し、異文化理解を深め、国際的な視野を広げることを目的とした授業です。アメリカ・ツアーでは、ワシントンとニューヨークを訪問。国際連合本部や国際協力機構（JICA）などを訪ねたほか、日本のテレビ局のワシントン支局で海外取材の現場を見学しました。国連や世界銀行では、第一線で働く日本人職員と懇談し、仕事の内容や意義をじっくりと聞いて、世界で活躍する将来の自分の姿に夢をふくらませていました。

アメリカの学生と交流

現地学生との交流も楽しみの一つ。ジョージタウン大学とジョージ・ワシントン大学の日本語学科の学生たちと交流しました。アベノミクスで激論を交わしたり、あっちむいてホイ大会で盛り上がったり。最後は、名刺を交換して、メール文通の約束も。

国際的な視野を広げる

教員が引率しているものの、ツアーを仕切るのは学生たち。英語で道を尋ねたり、チケットを手配するなど自分の語学力を試すことができました。多くの学生は「海外へ再度行きたい」、「仕事は世界を舞台に」など、視野を広げることができました。

テレビ局のワシントン支局を訪問

国際連合安全保障理事会の会議室を見学

ホワイトハウス前で記念撮影

※海外スタディーツアーとは

「海外スタディーツアー」は国際協働グループの選択科目のひとつで、約7割の学生が受講しています。国際機関や企業、現地の大学などを訪問し、国際的な視野を養います。訪問国はアメリカのほか、フランス、ポーランド、中国、台湾、韓国、インドネシアの7つ（平成28年度現在）です。

アメリカの大学生と交流する学生たち

column

海外体験型授業

海外体験型授業は、「海外スタディーツアー」のほか、「国際協働キャリア実習」、「国際協力実習」、「海外日本語教育インターンシップ」、「国際コミュニケーション短期研修」、「国際コミュニケーション実習」などがあり、国際協働グループの学生は必ず1つ以上を受講します。函館校には、渡航費の一部を補助する制度があります。

訪れた国のフードを堪能!

日本ーカナダ学生ワークショップを開催

カナダの学生らとテレビ会議

函館校の学生とカナダのトロント大学の学生らが、日本とカナダの地方都市における人口減少問題について議論する日本―カナダ学生ワークショップを行いました。このワークショップは、トロント大学と東京大学の学生らを中心に構成される学生団体「カナダ―日本研究グループ」が主催したもので、本学の学生のほかに、明治大学、愛知県立大学の計5大学の学生が参加し、各大学をテレビ会議でつないで行われました。

人口減少問題を議論

日本と同様、カナダでも地方都市の人口減少は大きな問題となっており、カナダの学生たちが興味を持つ研究テーマのひとつとなっています。今回のワークショップでは、日本の地方都市の実例として、函館市を題材に議論することになりました。ワークショップには函館市役所の職員が協力し、函館市における人口減少の現状と対策について紹介しました。その後、5大学の学生たちは、IT企業の誘致、子育て支援、移民受け入れなどの人口減少対策について活発に議論をしました。

国際的な視野から考える

学生たちはカナダの学生らとの議論を通して、地方都市の問題について日本特有のものだけでない、他国との共通性を学ぶとともに、海外の様々な対策を知ることができ、大きな刺激を受けていました。今後も国際的な視野から学生間で議論を深め、本学とトロント大学等との共同研究に発展させていく計画です。

各大学をテレビ会議でつないで議論

函館市役所の職員からの現状報告

ワークショップ参加者で記念撮影

column

函館で国際交流

函館校には、協定校からの交換留学生をはじめ、日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換教授などが多数訪れています。授業や課外活動など様々な場面で異文化への理解を深めることができ、国際的な視野を広げることができる環境にあります。

五稜郭公園で留学生とお花見!

P07より Quiz が START!

Q1 臥牛山とも呼ばれる函館山はいくつの山々（峰）から構成されているでしょうか？ クイズの答えはP08へ

topics 02 HAKODATE campus

教育的な観点をもって地域社会の諸課題に取り組むことのできる力

国際地域学科のミッションは「教育マインドをもつ人材」を養成することです。学生たちは教育学部で教育の本質を学びます。こうした学びを通して、教育的な観点をもって地域社会の諸課題に取り組むことのできる力を身につけています。ここでは、大学と企業が連携した「寄附特別講座」と大学と学校が連携した「ソーシャルスキル教育」について紹介します。

寄附特別講座の開催

企業と連携した地域産業を担う人材の養成

函館校は新日本スーパーマーケット協会および北洋銀行と連携し、「寄附特別講座」を平成27年度から毎年開講しています。本講座は「地方創生」の取り組みが求められるなか、各界で活躍されているトップクラスの方々を講師に迎え、地域産業を担う高度な人材の養成を目指しています。

地方創生について学び、考える

平成28年度のテーマは「地域の価値創造」。ふらのまちづくり株式会社の西本伸顕社長は、「フラノマルシェとまちづくり」と題して、民間主導で市街地活性化につなげたことについて講話しました。また、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の新井毅内閣審議官は「政府が進める地方創生について」と題して、地方創生の背景や目指す方向性などについて説明しました。講話の後、函館を含む道南地域の価値創造を今後いかに実現していくかについて、学生が一般市民とともに考えました。

経営トップからの熱いメッセージ

新日本スーパーマーケット協会の横山清会長、北洋銀行の石井純二頭取の経営トップ2人と、本学の蛇穴治夫学長がパネルディスカッションを行いました。ディスカッションの中では、地域創生人材を生み出すためには教育が重要であることが示されました。また、これからの地域を担う学生に対し、「在学中に幅広い教養を身につけ、失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦してほしい」とエールがおくられました。

地方創生について講話する講師

学生たちと対話する講師

寄附特別講座の様子

経営トップによるパネルディスカッション

寄附特別講座を受講した

寄附特別講座で「現実」を学びました

神内 瑚伯さん
国際協働グループ2年

熊野 心平さん
地域政策グループ2年

寄附特別講座では、実際に様々な活動に尽力されている方々のお話を聞くことができ、知識だけでなく、経験を伴った内容から感じられる「現実」を学ぶことができました。新たに国際地域学科となった函館校の学生たちが多く利用していくべきイベントのひとつだと思っています。

ソーシャルスキル教育の実践

地域の学校で出前授業

地域教育専攻の本田真大研究室の学生は子ども集団の人間関係づくりやいじめに関する心理学の研究をしています。こうした学びを生かして、地域の小・中・高校生には対人関係や集団生活をより良くするためのソーシャルスキル教育を、附属の幼稚園では主体性の育ちを支える異年齢集団の遊びを実践しています。

子ども集団の人間関係づくり

知内町立知内中学校の生徒は、「障害があるかないかに関わらず共に学び、共に生きる社会を実現するためのコミュニケーションの在り方」として、「多様性（一人一人の違い）を尊重する姿勢」を学習しました。学生の指導の下、1年生は「相手を分かろうとしながら協力すること」、2年生は「配慮しながら自己主張しあい合意形成すること」、3年生は「困難状況で援助しあうこと」について小グループの体験活動を通して学びました。

いじめの未然防止活動

北海道教育委員会渡島教育局が開催する「どさんこ☆子ども地区会議」にて、「相手の思いや気持ちを考えながら行動すること」をテーマとしたグループ活動を行いました。学生が小・中・高校生のグループに参加し、いじめに関する考えや思いを共有しました。

こうした地域の学校、教育委員会と協働した教育実践を積み重ねて、より良いソーシャルスキル教育プログラムの開発研究を行うとともに、学生はいじめや不登校を予防する教育相談の方法を学び、心理学的な子ども理解の力を高め、小学校・幼稚園の教師をめざします。

中学校での出前授業の様子

出前授業の指導案とワークブック

ベトナムの小学校でボランティア活動

column

「国際ボランティア大賞」全国大会出場

村田幸恵さん（地域教育専攻2年）が国際ボランティア大賞2016北日本大会で優勝し、全国大会に出場しました。村田さんはベトナムを訪れ、小学校でボランティア活動に参加。「貧しくても楽しく勉強している姿から幸せの形は人それぞれだと感じた」とした上で、「今後も子どもたちの学びを応援したい」と抱負を語りました。

高等学校での出前授業の様子

Q2 函館周辺には五稜郭のほかにも○稜郭があります。○に入る数字は何でしょうか？ クイズの答えはP10へ

A P07 のクイズの答えは… 13

topics 03 HAKODATE campus

多様な文化・価値観・背景をもった人々とコミュニケーションする力

国際地域学科のミッションは「豊かなコミュニケーション能力を発揮する人材」を養成することです。
学生たちは外国語能力を基盤に、多様な文化・価値観・背景をもった人々とコミュニケーションする力を身につけています。
ここでは、函館地区の大学生が参加する「英語プレゼンテーションコンテスト」と必修科目「地域プロジェクト」での取り組みについて紹介します。

▲被り物で会場を沸かす発表者たち

▲ジェスチャーを交えた発表

英語プレゼンテーションコンテスト

英語プレゼン力を競う

函館英語プレゼンテーションコンテストは自分たちの意見や主張を英語で発表する大会で、例年12月に函館校を会場に開催されます。函館校の学生のほか、北海道大学水産学部、公立はこだて未来大学、東京理科大学長万部キャンパスなど、道南地域にある大学の学生が2～3人でチームをつくり、流暢な英語と創意工夫に富んだプレゼンテーションを行います。

話題性と説得力で勝負

自分たちの身近にある問題や地域の課題を取り上げ、それを解決するための具体的な方法を英語で提案します。その際、正確でわかりやすい英語で表現するだけでなく、話題性のあるテーマを取り上げたり、数字やグラフでデータを示したり、ジェスチャーや写真を交えて視覚に訴えたり、論理的に議論を展開していくなど、説得力のあるプレゼンをすることで、聴衆や審査員にアピールします。約8分間のプレゼンの後には、審査員と英語で質疑応答を行います。

函館校の学生が活躍

平成27年度の第3回大会では、各大学から合計12チームが出場したなか、函館校の学生チームが見事優勝し、優勝カップと副賞が贈られました。「Designing Hakodate Tourism with the Hokkaido Shinkansen：函館の特色を生かした北海道の玄関口とは」というテーマは話題性があったとともに、発表者の優れた英語力が高く評価されました。

▲北海道新幹線をテーマにした発表

▲厳正な審査が行われます

▲函館在住の外国人にインタビューする様子

▲外国人に質問する学生たち

外国人の目線で函館の国際化を考える

外国人と協働で国際化を考える

地域プロジェクト※のひとつ「外国人の目線で函館の国際化を考える」を受講する学生たちは、函館市内および近郊に住む外国人を対象に函館での生活や印象について調査し、国際都市化へ向けたまちづくりの提言をまとめました。さらに、函館市のまちづくりの指針を検討する「総合計画策定庁内ワーキングチーム」の職員と意見交換会を実施し、地元メディアにも大きく取り上げられました。

外国人にインタビュー

調査では、アメリカやネパール、ウガンダなど20の国・地域出身の函館在住外国人約70人に直接インタビューすることができました。その結果、「函館は住みやすい」と答えた人が9割に達したのに対し、「函館は国際的な街とは言えない」と回答した人が6割近くもいました。学生たちは調査結果と外国人の意見をもとに、①多言語の学生通訳ボランティアの導入、②外国人が自国の文化を発信する交流イベントの開催、③外国人のまちづくり参加を目指した「多文化共生・円卓会議」の設置、などのアイデアをまとめました。

まちづくりに貢献

学生たちは調査結果と提言を函館市役所で発表し、活発な意見交換が行われました。若手職員主体の庁内ワーキングチームは、学生の調査結果を総合計画策定の参考にしたいと高く評価しています。今後も函館市役所との連携を一段と強め、函館の国際化に向けた実践活動を進めていく予定です。

▲函館市役所職員に調査結果を報告

※ 地域プロジェクトとは

国際地域学科の必修科目「地域プロジェクト」は、学生がグループを形成して協働で地域課題解決のためのプロジェクトを構想し、地域の人々とも連携して遂行し、その成果を大学と地域に対して公表するという科目です。プロジェクトの総数は毎年40を超え、これほど多くのプロジェクトを実施する大学は全国でも類を見ません。

▲函館での生活について意見を聞く様子

調査に参加した

白幡 碧さん
国際協働グループ3年

外国人だからといって特別じゃない。暮らしやすい街は地元民にとっても同じだと知りました。

column

英語ミュージカル

函館校の学生と地域の中学生・高校生の約60人が函館市民会館で全編英語のミュージカル“Beginning Of May”を上演しました。文化的障壁を打ち壊していくポリネシアの若い女性のストーリーを演じ、歌い、踊り、音楽で表現し、約200人の観客から大きな拍手喝采を受けました。

▲英語ミュージカルを上演♪

Q3 平成元年に制定された函館市の魚はなんでしょうか？ クイズの答えはP12へ

A P09のクイズの答えは… 三、四、七

topics 04 HAKODATE campus

地域の諸課題を理解し、地域の再生を推進する力

国際地域学科のミッションは「地域を活性化できる人材」を養成することです。学生たちは授業やゼミ活動などを通して、道南地域を中心に、地域の諸課題を理解するとともに、地域の再生・活性化を推進するために必要な知識とスキルを身につけています。ここでは、大学と自治体の協働事業「ソーシャルクリニック」と必修科目「地域プロジェクト」での取り組みについて紹介します。

神輿行列に参加する男子学生たち

※ソーシャルクリニックとは

ソーシャルクリニックとは「地域社会の診療所」を意味する造語。観光振興や福祉など地域課題の解決に向けて、学生たちが地域住民と一緒に、地域課題の診断（現状確認・調査）、処方（解決策の提案）、治療（解決策の実践）を行います。この活動を通じて、学生はまちづくりや地域振興を担うために必要な知識とスキルを身につけます。

巡行に参加する女子学生たち

ソーシャルクリニック「エエまちづくり」に参加

江差町 エエまちづくりに参加

函館校と江差町の協働事業「江差ソーシャルクリニック※」では、「エエまちづくり」と題して、まちあるきツアーや姥神（うばがみ）大神宮渡御祭（とぎょさい）の参加体験などを行っています。

散策しながら まちづくりを学ぶ

まちあるきツアーに参加した学生たちは、地域住民の案内に従って、歴史的な建物が並ぶ「いにしえ街道」や、代表的な観光スポット「かもめ島」などを散策。さらに江差町長からまちづくりや地域課題について説明を受けました。学生たちは観光振興などについて意見を出しあっていました。

北海道最古の祭りを盛り上げる

江差姥神大神宮渡御祭は370有余年の歴史を誇る北海道最古の祭りです。男子学生は神輿行列に、女子学生は本町清正山の曳山巡行に参加しました。この体験を通じて、江差町の歴史や伝統、地域の暮らしについて理解を深めるとともに、人口減少が進む中、祭りをどのように継承していくのかという課題について考える機会となりました。

いにしえ街道で説明を受ける学生たち

江差町長から説明を受ける様子

かもめ島からの景色を眺める学生たち

学生制作のリクルートブック

リクルートブック完成報告会

道南の優良企業を紹介する「リクルートブック」を刊行

道南の優良企業を紹介

地域プロジェクトのひとつ「道南地域企業就職応援プロジェクト」では、道南の優良企業を紹介する「リクルートブック」を刊行しました。現状は道南で就職したい学生がいるにもかかわらず、企業の情報が十分に伝わっていないという課題がありました。そこで、プロジェクトのメンバーは、就職活動に役立ててもらおうと企画。北海道中小企業家同友会函館支部を通じて、17社の企業トップや若手社員に会って取材を重ね、冊子にまとめました。

企業情報や 社会人の働き方を掲載

リクルートブックには、企業理念や業務内容、売上額などの企業情報を掲載。さらに、社員の休日の過ごし方など、社会人の働き方についても記載されています。リクルートブックが完成したときには、取材した企業を招待して報告会を開催しました。

道南企業への就職を応援

リクルートブックは、キャリアセンター函館校センター内で自由に閲覧することができます。さらに、北海道教育大学の各キャンパスや函館市内の他大学にも寄贈されています。函館校の卒業生が道南の企業等に就職する割合は約15％（平成28年3月卒）。学生がもっと道南の企業を知る契機になれば、就職する学生も増え、地域産業の活性化にもつながることが期待できます。

プロジェクトの代表を務めた

貞廣 慎太朗さん
国際協働グループ3年

編集に苦労しましたが、企画の段階から時間をかけて、企業の取材も十分にできました。地域活性化のためにも、道南の企業を学生のみなさんにもっと知って欲しいです。

若手社員にインタビューする様子

道南企業で取材する学生たち

column

青函旅行企画コンペで最優秀賞受賞

北海道と青森県主催の北海道新幹線を使った旅行企画のアイディアコンペ「学生発!津軽海峡周遊プロジェクト～新幹線でつながる青森県・北海道～」において、函館校の勘田祐花さんと児玉香織さん（国際協働グループ3年）が最優秀賞に選ばれました。二人が提案したのは「3つのまちあるきと、地元で愛される食やスイーツを楽しむ旅」と題した2泊3日で青森を楽しむ旅行企画。受賞したプランをもとに、ガイドブックが制作され、テレビ番組も放映されました。

私たちが最優秀賞を受賞しました!

岩見沢校のCULTURALな施設 VS 函館校のGLOBALな施設

1階にはコンピュータルーム、シアタールーム、
グループインタビュールームやコミュニケーションスペースを、
2階には教養教育から専門教育までの
幅広いカリキュラムに対応する
アクティブラーニング教室を整備。
学生の多様なニーズに合わせた学習環境を整えています。

地域文化活動棟

ひときわモダンな建物の中には、語学学習を支援する最新機器を備えた教室や、
豊富な教材を完備したゆったりとした学習スペースが広がっています。
将来グローバル社会で活躍したいと考えているみなさんに、
語学学習と国際交流に関わるさまざまな支援を提供する施設です。

マルチメディア国際語学センター

コンピュータルーム

コミュニケーションスペース

シアタールーム

グループインタビュールーム

CALL1・2教室

受付カウンター

キャンパスの外にも自慢の施設が！

アーツ＆スポーツ文化複合施設（HUG）

美術展や音楽会、パブリックビューイングやワークショップ、イベントなどで活用。新たな地域文化や創造的な市民生活の提供の場を目指しています。

札幌市中央区北1条東2丁目4番地

i-BOX

岩見沢駅舎内に開設した市民と学生の活動情報拠点。芸術・スポーツに関する情報の発信を通して岩見沢校を紹介しています。

岩見沢市有明町南1番地1
有明交流プラザ2階

自分だけの勉強方法を見つけよう！

外国語自律学習ステーション（SALLS）

自分の目的に合った教材・勉強方法で気軽に外国語を学習できる場所です。図書教材約630点、視聴覚教材約400点を取り揃え、ネイティブ教員による個別指導やワークショップの開催など、さまざまな形でサポートします。

ラーニングポケット

映画やリスニング教材などを視聴できる個別学習室と、発表やディスカッションに適したグループ学習室があります。人気の「超字幕」シリーズも多数！

ラーニングカフェ

海外からの留学生と気軽に触れ合える、多文化コミュニケーション空間です。リラックスした会話を通じて、自然と外国語が身についていく環境を提供します。

Q5 岩見沢駅前には、高さ 20 メートルを超える「生きている化石」といわれるシンボルツリーがあります。ではその名前は何というのでしょうか？

クイズの答えはP16へ

A P13 のクイズの答えは… 約 5000 年前

話題のプロジェクションマッピングにも挑戦

topics 01 IWAMIZAWA campus

芸術やスポーツの文化価値を生み出す力

芸術・スポーツ文化学科の設置を契機に、音楽・美術・スポーツの原点である「あそび」をテーマとした「あそびプロジェクト」をスタートしました。岩見沢校の施設を開放し、学生たちが芸術・スポーツ文化学科で学び、獲得した知識・技術を地域に還元しています。

芸術・スポーツ・ビジネスがあそびプロジェクトで一丸となる

あそびプロジェクトとは

あそびプロジェクト※では、芸術・スポーツ文化学科の「音楽」、「美術」、「スポーツ」それぞれの特色を活かし「ビジネス」の視点も取り入れながら、教員・学生が一丸となり、主に体験型のプログラムを毎回30種類程度提供しています。

平成26年2月の第1回目に始まり、平成28年10月までに計8回開催し、これまでに延べ5,500人の方々にご来場いただいています。

大学の仕掛けで学生のやる気を喚起

本プロジェクトの運営に当たっては、各教員や学生に対し、プログラムの募集をかけるところからスタートします。学生たちは、これまで学んだ成果をいかに地域に還元するか、小学生をはじめとした子どもたちに喜んでもらえる企画は何か、ということを検討し、計画書を提出します。

プロジェクト当日は、一般市民と接することを通して社会を体験し、また、教員からの指導・助言を受け、一回り大きく成長します。

いくつかプログラムの事例をご紹介します。

ようこそ楽しいリズム学校へ！

「リズム」は、音楽において基本的かつ重要な要素の一つですが、音楽以外の世界にも繋がるものです。「カップス」というリズムあそびを、音楽の要素を使って遊びながら、子どもたちあるいは親子で覚えて、盛り上がるプログラムです。

バルシューレ

バルシューレは、ドイツのハイデルベルク大学で開発されたボール運動のプログラムです。子どもがあそびの感覚で夢中になってプレーしながら、多くのボールゲームの土台となる基本的技能を身につけていくプログラムです。

地域との連携も大事に

一方、本プロジェクトでは、大学の研究室や学生団体の企画だけではなく、岩見沢市、地域のNPO法人や美術館等の団体を招き、プログラムを提供いただいています。学生たちは、様々な学外団体の企画・運営を目の当たりにすることで、また、その学外団体のプログラムに参画し、運営をサポートすることで新たな知見を得ています。こちらも2つのプログラムを紹介します。

「こころ」の「かたち」を作ろう！

安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄で行っている「こころを彫る授業」の出張版として実際に大理石や軟石に触れ、削り、彫る体験をします。芸術・スポーツビジネス専攻の学生が運営サポートをしています。

燻製講座

燻製にしたい食材を持ち寄り、実際に燻製を作る講座です。地域の燻製販売店が企画したプログラムとなりますが、スポーツ文化専攻（アウトドア・ライフコース）の学生が運営をサポートしています。

※あそびプロジェクトについては、P05もご参照ください。

毎回一般市民が大勢参加するあそびプロジェクト

冬季には野外でもプログラムを展開します

第8回のチラシ「秋の1日を大学で遊ぼ！」

子どもたちとの「あそび」が学生にも貴重な体験に

リズムあそびは身体で音楽を感じられます

「こころ」の「かたち」ってむずかしいけれど楽しい

煙で燻すだけでこうも変わるものなのでしょうか

新しくて大きな体育館で思いっきりあそびます

子どもたちはボールあそびが大好き

column

岩見沢校第３体育館

平成26年1月に竣工。各種公式試合に対応したコートサイズを確保、アリーナと関連の深い運動分析室、情報分析室、戦略分析室を配置し、外部運動施設も利用可能なWC、更衣室も完備されています。

Q6 岩見沢市で、現在１番広い面積でつくられている作物は次のどれだと思いますか？

① お米 ② たまねぎ ③ 小麦

クイズの答えはP18へ

A P15のクイズの答えは… **メタセコイアです。**

「Project Xmas」という地元の冬のイベントで、LEDによるイルミネーションを施されることもあります。

topics 02 IWAMIZAWA campus

地域の様々な課題を解決する力

地域が抱えている課題解決に向けて、大学が地元の企業や団体の協力を得ながらプロジェクトを実施することが求められています。そんな中から「地域プロジェクト」という授業が生まれました。ここでは、アートの力で「バス待合所を涼やかな海の世界に」するというユニークな取り組みを紹介します。

地域プロジェクトで地域の課題に向き合う

日常生活から生まれる非日常の世界

美術文化専攻書画・工芸コースの3年生15人が、本校の授業「地域プロジェクト」※で美術を活用した地域貢献について話し合い、幅広い世代が利用する市立病院前バス待合所を装飾して平成28年8月3日～5日の3日間公開しました。地域を盛り上げるために「日常生活で何気なく使っている場所を、普段とは全く異なった空間に装飾する」という案が浮かびあがり、書道、日本画、染織、木工、金工を専門に学ぶ学生ならではの方法で「青の世界で待ち合わせ」をテーマに海を思わせる癒しの空間を作り上げました。

バス待合所を市民の"大切な場所"に変えたい

国道に面していて人の目に触れやすく、病院前ということでお年寄りの方も関わりやすいという理由で、プロジェクトの舞台は市立病院前のバス待合所にしました。そして残念なことに、ここ市立病院前のバス待合所はゴミが多いため、このプロジェクトで綺麗に装飾することにより、バス待合所を大切にしてもらいたい、また、岩見沢は内陸地で海が見えないので、このバス待合所に立ち寄って、気軽に海に行った感覚を味わってほしいという2つの願いを込めました。

地域の行政との交渉や市民との交流

今回のプロジェクトは何もかもが初めてで、実際の作品制作だけでなく、学生だけの力で岩見沢市に提案書を出したり、土地所有者の道などから使用許可を得たりして進められました。期間中は、学生が装飾などの説明をしながらバス待合所の利用者たちと交流しました。

バス待合所着せ替え作戦！

実際には、次のように地道な作業をして癒しの空間を作り上げました。全体の骨格となる箱形の木枠（幅6メートル、高さ2・6メートル、奥行き2・5メートル）は、学内の実習室内で完成させ、内装を仕上げてから一旦解体して現地で再度組み立てられました。

また、現場での作業は1日のみのため、授業の合間を見つけて装飾物を作成しました。天井にはプラ板で作った魚や、輪切りにしたストローと丸く切ったプラスチックフィルムで作った泡を、壁面には様々な素材を縫い合わせて作った布による装飾を施しました。

そして、床面には書道の下敷きに使う毛氈（もうせん）に海の底と魚の影を描いて作られたマットを敷きました。

ガラス部分には木工用接着剤と水彩絵の具を混ぜた塗料を塗り、待合所内に差し込む光を涼しげな色に変化させました。

プロジェクトの舞台となったバス待合所

涼やかな海のイメージに生まれ変わったバス待合所

授業の合間に縫い合わせ作業

現地での組み立て作業

バス待合所のガラスが海のイメージに

毛氈（もうせん）に描いたオリジナルのマット

※地域プロジェクトとは

芸術・スポーツの持つ A. 社会的包摂、B. 地域活性化、C. 地域文化振興、D. 高齢者福祉対策の4つのポテンシャルを、地域を舞台とした企画立案・実践活動を通して、深く学ぶ授業です。岩見沢校の全専攻の学生が、自らの専門性を活かした企画立案を行い、学内外の施設や地域を利用して実践活動を行っています。

A P17のクイズの答えは… **①のお米です。** 全部の農産物を作っている面積の、約半分がお米です。北村・栗沢町が合併したことによって、米の一大産地になりました。

Q7 岩見沢では、豪雪地帯ならではともいえる「雪とふれあい冬を楽しむ」祭典が毎年２月に開催されます。その名は何というのでしょうか？

クイズの答えはP20へ

topics 03 IWAMIZAWA campus

新たな文化ビジネスを発想する力

全国各地で共通して抱えている高齢化、少子化、人口減少、農産地、商店街の衰退等の課題解決に向けて、岩見沢校では地元の企業や団体の協力を得ながら新たな取り組みを進めています。こうした取り組みは、地域（地方自治体）及び大学（大学生・教員）双方にメリットがあり、そのノウハウの確立、継続的に実施できる仕組み作りが急務とされています。つまり、新たな文化ビジネスを「発想する力」が大学に求められているともいえます。

赤い電車と花火の華麗なる競演

会場設営も学生たちが力を合わせて一から行います

農産地ならではの古米を使った絵葉書づくり

地域活性化プロジェクトで実践を学ぶ

地域活性化プロジェクト in 農産地

岩見沢校では主に芸術・スポーツビジネス専攻の学生を対象にした「地域活性化プロジェクト」※という授業が設けられています。岩見沢市の農業生産法人（株）道下産地にご協力いただき、同法人が運営するレストラン「大地のテラス」を会場として、栗沢町上幌地域振興について「大学」と「地域」とがどのような連携ができるかをテーマに実践型授業を行いました。

夏だ、祭りだ、学生のエネルギーが多彩な催しへ

「上幌の夏祭り」→「ほろなつ祭」と題して、学生が平成28年8月17日、18日の2日間、「大地のテラス」内でジオラマ展示、マジックショー、ミニ縁日（コイン落とし他）、古米を使用した絵葉書づくりなど多彩な催しを開催しました。

クライマックスは打ち上げ花火50発

左上の写真はまるで絵画のようにも見えますが、「大地のテラス」敷地内に静態保存されている711系赤い電車を背景に花火を50発打ち上げるという、祭りのクライマックスの様子です。地元の（株）湯浅火薬銃砲店に学生が飛び込み営業の上、ほぼ原価での花火調達に成功、当日の打ち上げまでお願いしました。他にも近隣住民への周知、地元警察署や消防署との折衝など、イベントの裏側を隈なく経験することで、学生のアート系イベントへの意識が変化する様子が見て取れて、教員にも刺激となりました。

※地域活性化プロジェクトについては、P05もご参照ください。

プロジェクトの舞台となった711系赤い電車

赤い電車内での本格的なマジックショー

いわなびチャレンジスクール実施

いわなびチャレンジスクール

タイトルの「いわなび」は「岩見沢市生涯学習センター」の愛称です。そこを舞台とした"いわなびチャレンジスクール"とは、地域で様々な活動を行う市民などが講師となり、子どもたちに授業では教わらない、様々なことを学んでもらう取り組みで、通称は「いわチャレ」です。

上の図は岩見沢校の全専攻を対象とした「地域プロジェクト」授業内の「地域文化促進クラス（指導：宇田川耕一教授）」が平成28年7月16日に実施した「みんなでえんそうしよう♪わたしだけの楽器づくり」という「いわなびチャレンジスクール」イベントのチラシです。

専攻の枠を超えた「音楽＋ものづくり」のイベント

主に音楽文化専攻の学生が子どもたちに演奏の指導をし、他の専攻の学生がオリジナル楽器づくりを担当しました。子どもたちに音楽と工作を身近に感じてもらうのが狙いでした。終了後の学生の声をいくつか紹介しましょう。

「予備の材料（の準備）が不足していた」「子どもたちへのアプローチをもっと積極的にすれば良かった」という反省の他、「事前準備を綿密に行えたため、本番もスムーズに進行できた」「自分たちも子どもたちも楽しめた、満点!!」という自画自賛（?）の声もあり、学生が自ら発想したイベントを地域との連携で実現するというステップによって、確実に成長したのではないかという手応えが伝わりました。

岩見沢市教育委員会学習活動支援係によるチラシ

column

地域プロジェクトの成果展示パネル

新たな文化ビジネスを「発想する力」を身につけるのが目的の「地域プロジェクト」ですが、全専攻の学生が9つのクラスに分かれて取り組んだ授業内容を、毎年1枚のパネルにしてi-BOX（P15参照）や学内で展示しています。どれもユニークで楽しいものばかり、地域の方々からの評判も上々です。

A　P19のクイズの答えは… ズバリ「IWAMIZAWAドカ雪まつり」です。
雪像やすべり台などは想像がつきますが、変わったところでは「人間ばんば競争」も行われます。

Q8　岩見沢の地名の由来については、開拓使が炭坑までの道路を拓くときに川辺で浴（ゆあみ）したことが起源といわれますが、その根拠は何でしょうか？

クイズの答えはP22へ

topics 04 IWAMIZAWA campus

地域再生の核として活躍できる力

大学が地元の小・中・高等学校、企業や団体の協力を得ながら、地域活性化に向けてアクションを起こすことが求められています。学生が実際に自分の足で調査し、課題解決に向けたプロジェクトを企画・立案・実施することにより、地域への理解がより深まり、地域で活躍する人材として成長することにもつながります。その結果、大学が地域からのサポートを得るという好循環も生まれてきます。

(右上)美術部のマスコット「チメーバくん」、(右下)大学生と地元中学生との共同制作、(左上)準備は長く仕上げは2日間で一気に、(左下)美術室に突如現れた宇宙空間

教室と海をかけ合わせた独自の世界

黒板ジャックで地元中学生と交流

中学生と大学生で黒板ジャック

平成28年2月15日、岩見沢市立光陵中学校の美術部員23人と美術文化専攻の学生有志18人が合同制作した「黒板アート」※が光陵中の教室の黒板をジャックしました。この企画は、「卒業していく3年生へなにか贈りたい!」「皆を驚かせたい!」という中学生の想いから生まれ、岩見沢校の学生へ技術指導・合同制作の依頼があり実現したものです。

じっくりと長い時間をかけた取り組み

平成27年11月から打合せを開始し、5つのグループごとに生徒の想いを引き出しながら原案を作成したり、部活動の時間を使ってレクチャーを行ったりと長い時間をかけて準備が進められました。2月13日と14日の2日間で完成させた「黒板アート」は、2月15日の朝、登校してくる生徒たちを驚かせました。

各教室に合わせた作品を制作

高校入試を控える3年生の教室の黒板には美術部のマスコット「チメーバくん」がチアリーダーの姿で応援する姿や3年間の思い出を表現した作品。美術室には宇宙空間、家庭科室には教室と海をかけ合わせた世界といったように夢のある世界も描き出されました。

完成した5作品のうち、2点は公開後、1~2週間ほど保存され、学内だけでなく広く一般の方にも公開されたことにより、新聞記事にも取り上げられるなど大きな話題となりました。

※黒板アート
岩見沢校のYouTubeで公開中です。

岩見沢校 YouTube 検索

column

サッカー部サポート企業の獲得

サッカー部は岩見沢市内でサッカー教室「サッカーカレッジ」を開催し、中学生に対してサッカー指導をしています。また、人工芝となったサッカー場を市内の小・中・高等学校に開放するなど、地域との結びつきを大切にしてきました。

全国大会出場の常連となったサッカー部への支援を目的に、地域の企業に対して資金援助をお願いしたところ、平成28年度から岩見沢市内のホテルや遊園地を経営する「空知リゾートシティ」、介護付有料老人ホーム「オアシス」の2社が新たにサポート企業に加わりました。サポート企業は、アルバイト・パート情報提供の「アルキタ」と中古車販売の「オート×オート」に市内2企業を含め4社となり、心強い地元企業の支援に学生の士気も高まりました。

自慢の新しい人工芝でのびのびとプレーするサッカー部員

サポート企業のロゴが入ったユニフォーム

編集後記

本レポートの編集にご協力くださいました学外・学内の皆様、本当にありがとうございます。今回の編集作業を通して、函館校と岩見沢校に「地域学」と「芸術・スポーツ文化学」という2つの学びの基盤が、着実に根を下ろしていることを実感しました。両校の新たなチャレンジは始まったばかりです。このレポートを読んで下さったあなたとともに、さらに2つの学科が発展・飛翔できればとスタッフ一同心より願っております。(う)

編集スタッフ:松浦 俊彦、伊藤 泰(函館校)・宇田川 耕一、舩岳 紘行(岩見沢校)

A P21 のクイズの答えは… 現在岩見沢神社にある巖見澤紀(岩見沢市文化財)の碑文によれば、この地は唯一の憩いの場所として「浴澤(ゆあみさわ)」と称するようになったと言われています。